

令和6（2024）年度 生涯学習・社会教育関係職員研修 実施報告①

実施日：令和6年4月25日（木）

本研修では新たに生涯学習・社会教育関係職員として配属された方々が、業務を遂行する上で必要となる社会教育行政に関する基礎的知識や学習プログラムの企画・立案の技術等を学びます。第1回の研修には、47名の生涯学習・社会教育行政に携わる様々な立場の方が受講されました。

○ 説明「初めて生涯学習・社会教育行政を担う人に必要な基礎知識」 総合教育センター職員

始めに、生涯学習の理念や、社会教育の定義について根拠となる法律や答申等を交えて説明しました。また、施策の方向性を考える視点の一つとして、「市民の要望」と「社会の要請」のバランスを確保することについて、具体例を交えながら確認しました。さらに、地域や学校が抱える課題が複雑化・多様化している中で、これからの学校と地域の目指すべき連携・協働の姿について、地域学校協働活動がもたらす効果などに触れながら、地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える仕組みについて確認しました。



○ 事例発表「生涯学習・社会教育を担っている先達から学ぶ」

佐野市教育委員会教育部生涯学習課 主事補 岡崎 哲也 氏

岡崎氏は現在、佐野市教育委員会教育部生涯学習課に勤務され、今年で2年目になるそうです。勤務先で行っている事業及び担当した業務を進めていく上で工夫した点、特に意識している点などについて御発表いただきました。

また、社会教育行政のやりがいを感じる瞬間についても、「放課後子ども教室推進事業」の事例を交えてお話しいただきました。事業にボランティアとして参加していた高校生が、事業をとらして将来は子どもたちに関わる仕事がしたいと考えるようになり、今年度から公立学校の先生として働いているというエピソードを話されました。事例を交えたお話は、大変わかりやすく、受講者にとって今後の業務の参考となるものでした。



○ 情報交換「業務に対する情報の共有とネットワークづくり」 総合教育センター職員

前半は、受講者同士で自由に名刺交換をしながら自己紹介をするとともに、現在行っている業務などについて話をしました。後半は、4人のグループに分かれてさらに情報交換するとともに、説明や事例発表を聞いた上で、「できそうなこと」「やってみたいこと」等、自身で考えたことを共有しました。どの受講者も積極的に話をしており、関係職員の横のつながりづくりをすることができました。



☆受講者の声（アンケートから）

- ・他の市町の方とつながりができ、各々の事業を話すことで自分自身の市の取組の理解が深まった。
- ・「二十歳のつどい」は、今年度自分が担当する業務であるので、良いところを取り入れていきたい。
- ・「協働」という言葉が印象に残った。地域の方々や組織内の方々と協力して事業を実施していきたい。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp

